

平成 28 年 2 月 18 日

世田谷区立船橋希望中学校
校長 徳 永 啓 介 様

世田谷区立船橋希望中学校
学校関係者評価委員会
委員長 君 島 光 司

平成 27 年度学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において、「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び授業等の観察などをもとに総合的な評価を行い、以下のとおり報告書を作成いたしました。

【関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について】

- 1 「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉えた。
「肯定的評価」の割合が、生徒は 60%以上、保護者は 50%以上の項目を、「評価が高い項目」とした。
また、生徒は 80%以上、保護者・地域は 70%以上の項目と、「とても思う」の割合が 30%以上の項目については、「特に評価が高い項目」とした。
- 2 「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉えた。
「否定的評価」の割合が、生徒・保護者・地域ともに 25%を超える（4 人に 1 人が否定的）項目を、「課題がある項目」とした。
また、40%を超える項目や「思わない」の割合が 20%程度の項目については、「特に課題がある項目」とした。
- 3 「分からない」の割合については、25%を超える項目に注目した。
「分からない」の割合が多い原因を検討するため、生徒については、校長・副校長などの教職員に意見を求めた。また、保護者については、アンケートの「記述式のまとめ」や保護者会等での資料などで学校の広報の状況を参考にして分析した。
- 4 船橋希望中学校の前年度アンケート調査結果と比較して検討した。
本校の目標やそれを達成するための取り組みを適切に評価するため、アンケート集計結果の分析については、以下の 3 点で評価した。
 - ① 基本的には昨年度のデータとの比較検討し、上記の規準により評価した。この報告書の括弧（ ）内の数値は、昨年度の数値である。
 - ② 生徒は 60%以上、保護者は 50%以上の「評価が高い項目」でも、「否定的評価」の割合が 25%を超える項目については「課題がある項目」と捉えて分析をした。
 - ③ 学年毎の生徒と保護者の評価については、学年進行を考慮した比較検討も行った。
2 年生で 1 年生のデータと比較検討を行った場合、1 年生のデータは＜① >と表記した。3 年生で 2 年生と 1 年生のデータと比較検討を行った場合も同様で、1 年生のデータは＜① >、2 年生のデータは＜② >と表記した。
- 5 保護者アンケートの「記述式のまとめ」の内容については、1 人の意見を重視しすぎず、全体の状況を見誤らないように配慮した。

【アンケートの回収率について】

アンケートの回収率については、生徒 96.7% (95.0)、保護者 71.3% (71.0)、地域 61.8% (55.8) であった。

1 生徒について

今年度は昨年度と同等の回収率であったが、年々回収率は向上してきている。前年度も記載したが、生徒の回収率は 100% になるように生徒へのアプローチを検討されたい。

2 保護者について

今年度は昨年度と同等の回収率であったが、保護者の回収率の目標である 70% を超えた。今後も回収率の向上に向けた広報活動・情報提供に努力されたい。

3 地域について

地域関係者への配布先の見直しを行った結果、今年度は大幅に回答率が向上している。アンケートの配布数と回収方法については、地域関係者の意見が反映されるように今後も改善されたい。

【関係者評価・教職員の自己評価等をもとにした本校の成果と課題】

I 重点目標への取組の成果と課題

生徒は、「8 重点目標および数値目標について（独自項目）」〈教育目標について〉の(1)から(3)の項目で、保護者および地域は、「学校運営について」の(1)「学校の重点目標が明確である」の項目で評価した。

全般的には「評価が高い項目」である。

教育目標は、(1)・(2)については、教職員の日常的な働きかけと、特別活動等の取り組みで定着してきている。また、(3)も徐々に定着してきている。3項目とも学年進行とともに改善されているのは、3年間で「学校教育目標」を定着しようとする教職員の努力である。

保護者および地域については、「平成26年度改善方策に対する改善結果」の「1. 学校全体にかかわる広報活動の充実」で、「学校だより」やホームページ等で広報活動に取り組み、丁寧な説明に心掛けた結果、重点目標が浸透してきている。

II 地域との連携・協働による教育についての成果と課題

1 保護者・地域との連携

(1) 地域運営学校（学校運営委員会）

保護者・地域とも「地域との連携について」(4)で評価した。

学校運営委員会の活動について、十分な情報が提供された結果、保護者・地域ともに認知度が向上してきている。また、教職員の認知も向上してきている。

(2) 学校協議会等

保護者・地域とも、「地域との連携について」の(3)の項目で評価した。

保護者は、学校協議会や合同学校協議会の活動について十分な情報が提供された結果、「特に評価が高い項目」である。

地域は、昨年度は否定的評価が高く「課題のある項目」であった。しかし、昨年度と同様今年度も「よく役割を果たしている」で評価したが、十分な情報が提供された結果、大幅に改善した。

(3) 地域の人材や施設の活用

保護者・地域とも「地域との連携について」の(1)で評価した。

保護者・地域とも、高い評価を得ている。また、教職員の自己評価も高い。保護者・地域と教員に十分な情報が提供された成果である。

(4) 地域行事等への参加・協力

保護者・地域とも「地域との連携について」の(2)で評価した。

保護者・地域ともに、「学校が地域の活動や行事によく協力している」の肯定的評価は高く、学校と地域が良好な協力関係にあると、認識している。

「保護者・地域との連携」は、全項目で高い評価である。これは、学校が広報活動に努力したことや、学校支援コーディネーターなどとの相互の協力体制を図った結果である。今後も相互の協力体制が図れるように努力してほしい。

Ⅲ 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進についての成果と課題

1 学習指導

生徒は、「1 学習指導について」の4項目で、保護者は、「1 学習指導について」の4項目で評価した。生徒・保護者ともに「評価が高い項目」で、学校の取り組みは良好である。

生徒の学習指導全般については、全学年「特に評価が高い項目」である。生徒は現在の学習指導に満足している。特に、1・3年は「とても思う」の割合が30%を超えている。それに比べると2年生の評価が少し低い。

教職員の自己評価も、昨年度と同様高い評価で、授業改善の取り組みが進んでいる。

昨年度、一昨年度と指摘した授業の開始・終了時間については、昨年度より改善されてきているが、否定的評価の割合に課題がある。また、「課題のある項目」になっている学年もあり、日常の授業の状況については、なお一層の改善を図りたい。

保護者は、全般的に学習指導について肯定的な評価をしているが、保護者の学習内容や学習指導に対する期待に十分に答えられていないことが課題である。特に、「本校は、子どもにとってわかりやすい授業が行われている」、「授業をとおして子どもたちに学力がついている」と「通知表で評価されたことは、納得できる」について、2年生は学年進行とともに評価が下がっており、課題である。

「平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」の「2.『学力』について」で、3項目の取り組みが示されているが、より一層の改善が必要である。

2 生活指導

生徒は、「2 生活指導について」の3項目で、保護者は、「2 生活指導について」の3項目で、地域は、「1 生活指導について」の2項目で評価した。

生徒は、3項目とも全学年で肯定的評価の割合が高く「特に評価が高い項目」である。生徒は学校の規則を守って行動し、教師の指導にも納得して学校生活を送っている。このことは、毎年のことであるが、教職員の自己評価で、社会の一員としての自覚や生活ルールなどの指導を実践している評価が高いことが反映している。

保護者は、個別の学年では課題があったが、全般的には「評価が高い項目」である。中学校の生活指導の内容や方法に対して保護者の理解が深まってきているが、2年生の保護者との相談に関しては、取り組みの改善が必要である。

地域は肯定的評価が高く、地域での生徒の状況は極めて良好である。また、教員の地域での行動も高い評価を得ている。

今後も、学校で引き続き指導するとともに、各家庭で指導すべきところは指導し、学校・家庭・地域が協力して改善を図ってほしい。

3 学校行事

生徒は「3 学校行事について」の3項目と「8 重点目標および数値目標（独自項目）について」の(6)で、保護者は「3 学校行事について」の3項目と「12 重点目標および数値目標（独自項目）」の(6)で、地域は「2 学校行事について」の3項目と「7 重点目標および数値目標（独自項目）について」の(1)で評価した。

生徒・保護者・地域の学校行事の項目は、毎年特に高い評価である。生徒は、行事を楽しむに、活躍するチャンス（場面）が多く、保護者は、子どもたちが活躍している様子などから学校の取り組みを評価している。また、地域からも船橋希望中学校の学校行事が高く評価されている。

これは、教職員が生徒の主体的な参加や行事の工夫・改善に取り組んでいる結果であることが分かる。

4 キャリア教育・進路指導

生徒は、「4 進路指導について」の3項目で、保護者は、「4 進路指導について」の4項目で評価した。

生徒は、昨年度に比べ改善されているが、昨年度と同様に他の項目に比べて低い評価である。

「平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「1. 生徒の『進路指導』について」で、(1)「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」に対して、「私たちの進路」の活用方法を検討し、全教育活動を通して日常的に「将来の生き方や進路」について考える機会を設定していくことにしたことで、肯定的評価 81% (69)、否定的評価 13% (24) で改善された。しかし、(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」に関しては、肯定的評価 56% (47) と全学年では改善され、教職員の自己評価も高いが、生徒の否定的評価は 35% (42) で実感していない生徒も多い。特に、1年生は否定的評価が 44% で、「分からない」と回答した生徒が 15%、2年生の否定的評価も 42% <①55> で、大きな課題が残った。また、(3)「進路に関する情報が十分提供されている」も同様で、肯定的評価 66% (54)、否定的評価 24% (34) で全学年では改善されている。しかし、1年生は否定的評価が 36% で、2年生は否定的評価が 30% (33) で、この項目も大きな課題が残った。

いつでも相談できる雰囲気をつくるとともに、上級学年が行っている進路の取り組みを、「学年便り」等で紹介していくとしていたが、まだまだ不十分であり、より一層の努力を要する。

保護者は、広報の充実を図ってきた成果、昨年度より改善してきている。(1)「本校は、子どもに将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している」は改善された。しかし、1年生の「分からない」が 29% と高いことが課題である。(2)「本校から、進路について十分な情報提供がされている」も高い評価であるが、2・3年生の否定的評価が 20% を超えており、1年生の「分からない」が 24% と高いことも課題である。(3)「本校は、進路について保護者が相談する機会をもっている」も高い評価であるが、「分からない」が 1年生 23%、2年生 20% と高い。(4)「本校の教員は、親身になって進路の相談にのっている」の肯定的評価は 59% (54) で、改善されてきている。しかし、「分からない」の割合が、1年生 34%、2年生 31% と高いことが課題である。

保護者は、4項目とも「評価が高い項目」になったが、「平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の取り組みで、各学年で情報提供などに取り組んできているが、生徒・保護者に認知されていない面がある。また、進路相談については、1・2年生で個人面談など相談の機会があっても浸透していないため、「分からない」の割合が高いことも課題である。

5 体育・健康教育・食育

保護者の「11 学校全般について」の(4)で評価した。

一昨年度、昨年度に続き、大幅に改善され、高い評価である。しかし、この項目は、教職員の評価との乖離があり、全学年で「分からない」の割合が高い。このことについては、検討すべきである。

6 世田谷9年教育

生徒は、「7 学校全般について」の(3)で、保護者は、「8 広報活動・情報提供について」の(5)と「9 地域との連携について」の(5)で、地域は、「4 広報活動・情報提供について」の(5)で評価した。

生徒の「学び舎」の区立小学校との交流について、「あいさつ運動」など生徒の交流が行われている。しかし、否定的評価 27% (35)、「分からない」23% (25) で、評価は改善されてきているが、生徒の交流がまだ進んでいない。

保護者は、「学び舎」の活動の情報提供では、生徒の「あいさつ運動」や各小・中学校のPTAの交流も行われ、その活動が「学校だより」等で提供された結果、保護者に「学び舎」が認知されてきたと考える。また、「学び舎」の区立小学校の情報提供についても、「8 広報活動・情報提供」の成果で大幅に改善された。

7 部活動

生徒は、「5 部活動について」の3項目で、保護者は、「5 部活動について」の3項目で評価した。

生徒の部活動全般についての評価は、生徒の希望が叶い、高い評価になっている。また、校庭・体育館等を含めた施設の面や中学生として望ましい部活動の回数と時間についても、子どもたちの理解が深まってきている。

保護者も、部活動が全般的には適切な指導のもと充実しており、生徒が活躍していると感じている。

教職員の自己評価での部活動の活発さの肯定的評価が高いが、一昨年度、昨年度と同様、組織的実施の評価が若干低い。教職員の一部に、「全教職員で組織的に」実施されていないと感じているのは、学校経営上の課題である。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくりの成果と課題

1 学校経営・学校運営

保護者は「6 学校運営について」の(2)と(3)で、地域は、「3 学校運営について」の(2)で評価した。

学校経営・学校運営に関しては、「学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果で、年々肯定的評価が上がり、保護者・地域から高い評価を得ている項目である。

昨年度と同様、校長がリーダーシップを発揮して学校運営や教職員の指導にあたり、学校の取り組みや教職員の姿勢が高く評価されている。また、教職員の自己評価からも校長を中心に教職員が協力して教育活動に取り組んでいることが窺える。

今後も広報活動に取り組み、学校経営・学校運営や教育活動について、保護者・地域に発信していただきたい。

2 教職員

生徒は、「6 先生について」の3項目で、保護者は、「7 教員の対応について」の2項目と「12 重点目標および数値目標（独自項目）について」の(5)で、地域は、「3 学校運営について」の(3)と(4)の2項目で評価した。

今年度も、教職員が様々な場面で熱心に指導しており、生徒・保護者ともに教員の指導には満足している。

生徒は、3項目とも年々改善されてきている。

教員の指導については、全学年で評価が高く、教員は様々な場面で熱心に指導している。また、聴く姿勢についても、全体として生徒一人一人に丁寧な対応を行っており評価が高い。個別の学年で気になるところがあるので、教員が生徒の話を聴く機会の工夫が望まれる。

しかし、教員の指導の公平性については、少しずつ改善されてきているが、生徒の評価は分かれ、昨年度と同様課題が残った。指導場面や対応時の状況によって、生徒一人一人の受け取り方や感じ方は大きく左右されることがあるので、数値のみでの判断は難しいが、指導場面での更なる工夫が必要である。

保護者・地域については、保護者は「8 広報活動・情報提供について」の(2)「本校は、保護者に対し、ていねいな説明や対応をしている」の評価も併せて考察した。この項目も昨年同様評価が高く、地域の評価と総合的に判断すると、保護者・地域に丁寧な説明や対応で高い評価を得ている。しかし、保護者の教員と「話しやすい雰囲気」については、個別の学年で課題があった。今後は、保護者が来校した際には、職員室など様々なところで相談しやすい環境を作り出す努力が必要と考える。

3 保健・衛生管理（学校環境・学校給食）

保護者の「10 学校の安全性について」(5)で評価した。

今年度も、学校環境・学校給食について、学校が生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。

4 安全管理

保護者は「10 学校の安全性について」の(1)から(3)の項目で、地域は「6 学校の安全性について」の(1)・(2)の項目で評価した。

学校の安全性については、学校で生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。また、安全指導・避難訓練や災害時の保護者・地域との協力などについても評価が高く、昨年度と同様に学校の取り組みが理解されている。また、地域の避難所としての役割が十分に理解されている。新校舎での教育活動により、年々改善されてきている。

5 広報活動・情報提供

保護者は「8 広報活動・情報提供について」(1)から(4)の項目で、地域は「4 広報活動・情報提供について」の(1)～(4)の項目で評価した。

「I 重点目標への取組の成果と課題」と同様、「学校だより」、毎週発行される「学年だより」、ホームページなどで、生徒の様子や保護者の知りたい情報が盛り込まれ、確実に発信してきたことで高い評価を得ている。また、生徒への指導の場面や保護者会等で丁寧な説明や対応に心掛けた結果でもある。

地域も保護者と同様に、3点の改善方策が確実に実施された成果で、肯定的評価の割合が高い。しかし、ホームページへのアクセスがまだ多くないと考えられるので、一層の広報が必要である。

V 安心安全と学びを充実する教育環境の整備の成果と課題

保護者は「10 学校の安全性について」(4)で、地域は「6 学校の安全性について」(3)で評価した。

校舎が新しくなり、校庭が整備されたことにより、施設・設備の安全性の確保だけでなく、教育環境としての整備が進んだことの認識が保護者・地域に浸透し、高い評価である。

今後も施設・設備の不備や変更の状況について、保護者・地域への丁寧な説明や広報を期待したい。

VI 学校生活全般の成果と課題

生徒は「7 学校全般について」の(1)と(2)の2項目で、保護者は「11 学校全般について」の(1)から(3)と(5)の4項目で評価した。

生徒は、学校全般について、進路指導など生徒が満足していない教育活動もあるが、「とても思う」という評価が50%近くである。教職員の様々な努力により、現在の中学校生活に十分満足している。今後も生徒にとって、「好きな学校」「楽しい学校」であり続けるように、教職員の様々な努力を継続していただきたい。

保護者も、子どもたちが楽しい学校生活を送り、学校全体に活気があると感じている。また、教育活動全般に対する満足度は非常に高い。スクールカウンセラーの役割についても、保護者に周知されてきている。

VII 数値目標の取組の成果と課題

平成27年度の3つの数値目標について、それぞれ評価した。

- 1 人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気に取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を85%以上にする。

生徒は「8 重点目標および数値目標（独自項目）について」(6)で評価した。

(6)「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」91% (89)で「とても思う」63%であり、非常に高い評価で、目標は達成されている。

保護者は「12 重点目標および数値目標（独自項目）について」(6)で評価した。

(6)「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」の肯定的評価は96% (96)で、「特に評価が高い項目」であり、学校は保護者の期待に十分に応えている。

2 日々の授業を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。

「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を 80%以上にする。

生徒は「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「授業の内容はよくわかる」85% (83) で、全学年で非常に高い評価である。また、3年生は「とても思う」の割合が 30%を超えている。今年度も教員が改善に取り組んだ成果で目標を達成している。

保護者の「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「本校は、子どもにとってわかりやすい授業が行われている」の肯定的評価は 71% (66) で、否定的評価は 15% (19) で改善され「評価が高い項目」であるが、個別の学年では課題がある。

3 基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人一人が大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。

「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を 90%以上にする。

生徒は「2 生活指導について」(1)で評価した。

(1)「わたしは学校のきまりを守って行動している」91% (88) でも昨年度より肯定的評価が高くなっている。また、2・3年生は「とても思う」の割合が 40%を超えており（1年生は 36%）、目標は達成されている。生徒は学校の規則を守って行動し、教師の指導にも納得して学校生活を送っている。

また、この項目については、保護者・地域の「子どもたちが社会のルールを生徒が守っている」も評価したが、十分達成されている。

保護者は「2 生活指導について」の(1)で評価した。

(1)「本校では、社会のルールを守ることに子どもたちに指導が行われている」の肯定的評価は 90% (83) と、昨年度から大幅に改善され、非常に評価が高く良好である。

地域は「1 生活指導について」の(1)で評価した。

(1)「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」97% (85) で非常に評価が高く、地域での生徒の状況は極めて良好である。

VIII 独自項目の成果と課題

生徒の「8 重点目標および数値目標について（独自項目）」の 10 項目について、「学校教育目標について」「日常生活や学校生活について」「家庭・地域との連携について」の 3 観点にまとめて検討して評価した。

保護者の「12 重点目標および数値目標について（独自項目）」の 10 項目については、「保護者と子どもとの関係」「保護者と学校・教職員との関係」「学校や地域での子どもの様子の把握」の 3 観点にまとめて検討し、評価した。

地域の「7 重点目標および数値目標について（独自項目）」の 6 項目については、「学校での生徒の活動について」「地域での生徒の活動について」「地域の方々の来校頻度」の 3 観点にまとめて検討し、評価した。

1 生徒の独自項目

学校教育目標の周知とその定着への取り組みについての 3 項目、(1)「私は、友だちなど他の人に対し、認め合い、励まし合う気持ちをもっている」、(2)「私は、深く考えて行動するように心がけている」、(3)「私は、磨き合い、高め合う気持ちを持っている」は、教職員の日常生活や特別活動等の働きかけや取り組みで、生徒は学校教育目標を意識して行動している。また、学年進行とともに評価が向上しており、教職員の努力により 3 年間で学校教育目標が定着してきている。

日常生活や学校生活についての 6 項目、(4)「私は、相談できる人がいる」、(5)「私は、清掃活動を真面目に取り組んでいる」、(6)「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」、(7)「10 分間の朝読書には、よく取り組んでいる」、(8)「私は、

挨拶を心がけている」、(9)「私は、時間を守るように心がけている」は、全ての項目で高い評価である。学校が重点としている清掃活動や挨拶は、日常生活での指導と学校の取り組みの成果である。また、相談できる相手を得ることは「心の安定」の面からも重要であるが、多くの生徒が相談できる相手を得ていることで、安定した学校生活が送られている。

家庭・地域との連携についての1項目、(10)「私は、お祭りに行ったり、子どもぶんか村の活動や発表会に行ったり、地域防災に参加したりなど、地域活動やボランティア活動に関心をもっている」は、今年度からの項目で、肯定的評価は60%である。昨年度までは、「参加」という言葉での項目であったので、係活動をしていないと「参加」ではないと考えている生徒が多かったと思われる。しかし、今年度から「関心をもっている」としたため大幅に改善したが、否定的評価が31%であり、「課題のある項目」である。

2 保護者の独自項目

保護者と子どもとの関係についての2項目、(1)「子どもと話をする機会は多い」、(2)「子どもの学習状況をつかんでいる」で、(1)および(2)を総合すると、昨年度と同様、「子どもと話す機会」は多いが、学校での「学習の様子など」については、話題にならない家庭があるということであろう。

保護者と学校・教職員との関係についての4項目、(3)「授業参観や、保護者会など、学校に行くようにしている」、(4)「学校からのプリント類をよく読んでいる」、(5)「先生と話しやすい雰囲気がある」、(7)「10分間の朝読書は、続けてほしい」である。保護者の来校頻度については、個別の学年で課題があるが概ね良好である。また、学校からのプリント類を受け取り、情報を得ている。しかし、前述したが、保護者の教員と「話しやすい雰囲気」については、個別の学年で課題があった。今後は、保護者が来校した際には、職員室など様々なところで相談しやすい状況を作り出す努力が必要と考える。「朝読書」では、生徒は熱心に取り組んでおり、保護者・地域も継続の要望が高い。

学校や地域での子どもの様子の把握についての4項目、(6)「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」、(8)「子どもたちは挨拶をよくしている」、(9)「子どもたちは、時間を守って生活している」、(10)「子どもたちは、お祭りに行ったり、子どもぶんか村の活動や発表会に行ったり、地域防災に参加したりなど、地域活動やボランティア活動に関心をもっている」で、学校は保護者の期待に応じて行事などを実施しており、挨拶をすることや時間を守ることにしても、日常生活での指導と学校の取り組みの成果である。また、生徒の地域での活動についても、今年度から「関心をもっている」としたため、保護者の認知が大幅に改善した。

3 地域の独自項目

学校での生徒の活動についての2項目、(1)「生徒たちは、運動会や学芸発表会では、意欲的に取り組んでいた」、(4)「10分間の朝読書は、続けてほしい」で高い評価である。

地域での生徒の活動についての3項目、(2)「生徒たちは、挨拶をよくしている」、(5)「生徒たちの公共の場でのマナーは良い」、(6)「生徒たちは、お祭りに行ったり、子どもぶんか村の活動や発表会に行ったり、地域防災に参加したりなど、地域活動やボランティア活動に関心をもっている」で、各項目高い評価であった。

地域の方々の来校頻度の1項目、(3)「私は、学校公開や行事など学校に行くことが多い」で、肯定的評価が減ってきているが、他の項目からの関係では学校の様子に関心をもっていることが分かる。肯定的評価が減ってきている要因は、学校からの適切な情報提供で、来校していただかなくても、多くの情報を得ていることに起因しているのかと考える。

【学校関係者評価委員会の総合所見】

今年度は、統合ということをあまり意識せずに学校関係者評価を行った。

昨年度までの3年間は、船橋希望中学校の統合時に2・3年に在籍していた生徒・保護者や統合初年度に入学した生徒・保護者の意識が、統合によって学習指導、生活指導、特別活動や部活動等でどのように変化してきたかを中心に、学校関係者評価の分析と考察を行ってきた。それは、4年前に船橋中学校と希望丘中学校が統合された当時の生徒・保護者は、統合後に学校の規模が大きくなる新校に対して、不安を抱えるとともに大きな期待をもっていたと考えるからである。統合後は、校長のリーダーシップのもと、教職員が努力したことで、不安は解消されるとともに、活気ある学校へと変化し、教育活動全般に良い結果をもたらしてきた。このことは、過去3年間の学校関係者評価の分析と考察で、十分に認識されてきたと考える。

今年度は、全体として生徒・保護者ともに「評価が高い項目」が多く、また肯定的評価が90%を超える項目や、「とても思う」が30%を超え50%に近い項目の「特に評価が高い項目」も数多くあり、大きな成果を上げた1年であった。これは、昨年度の調査結果を踏まえ、「平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」を基に、校長のリーダーシップのもと、教職員が努力して様々な改善が図られた結果である。

生徒は、学校生活の基盤となる学習指導、生活指導、学校行事、部活動のほとんどの項目で、全体として前年度の調査を上回る結果であった。学習指導についても「改善方策」の3項目の取り組みを実施したことで改善された。特に、昨年度課題であった生徒の「進路指導」では、将来の生き方や進路について考えさせるため、授業で「私たちの進路」を活用したり、全教育活動を通して日常的に「将来の生き方や進路」について考える機会を設定したりしたことで、大幅に改善したことは大きな成果である。

保護者は、全般的には生徒と同様、多くの項目で前年度の調査を上回る結果であった。昨年度課題であった「進路指導について」については、「改善方策」を実践し広報活動の充実を図ったことにより、個別の学年では課題があったが、全体として「評価が高い項目」に改善され、「進路指導」の認識に変化してきていると考える。

また、「学び舎」の活動や「学び舎」の区立小学校についての情報提供も、生徒の「あいさつ運動」や各小・中学校のPTAの交流が行われ、その活動が「学校だより」等で提供された結果、保護者に「学び舎」が認知され、大幅に改善された。これも、学校の広報活動・情報提供の成果である。

地域については、全般的に船橋希望中学校の評価は高く、期待も大きい。

教職員の自己評価については、昨年度も指摘しているが、生徒の変容をしっかり捉えて自己点検をする必要性を感じる。

今年度の学校関係者評価の結果での課題は、以下のとおりである。

第1は、生徒の『進路指導』について」である。

「Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育の成果と課題」の進路指導で、「平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「2. 進路指導における情報提供の改善」で示した方策に従って、進路指導の充実を図ってきた。しかし、(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」と、(3)「進路に関する情報が十分提供されている」で、1・2年生の否定的評価が高く、2項目とも個別の学年ではあるが、大きな課題が残った。しかし、教職員の自己評価では、年間計画に基づき計画的に「職場体験」などを実施し、情報提供や進路相談を丁寧に実施したとして、全項目の中でも特に評価が高く、生徒の評価との乖離が非常に大きい。

この乖離は、教職員は年間計画に基づき計画的に職業講話、職場体験、上級学校訪問など「キャリア教育」を実施し、情報提供や進路相談を丁寧に実施していると考えているが、1・2年生は情報提供や進路相談を丁寧に実施されていると感じていないことに起因していると考えられる。これは、1・2年生が「進路指導＝キャリア教育」ではなく、「進路指導＝進学指導」との認識であるからと考える。「将来の生き方、将来の進路」に関することも進路情報であると認識させることが重要である。また、個人面談などの機会に、進路に

ついて相談する時間を設定することも検討されたい。

第2は、保護者の「『学力』について」である。

保護者は、全般的に学習指導について、肯定的な評価をしている。しかし、保護者の学習内容や学習指導に対する期待に十分に答えられていないことが課題である。特に、「授業を通して生徒に学力がついている」と「通知表で評価されたことは、納得できる」について、生徒の評価は高いが、個別の学年の評価で課題が残った。「平成26年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」の「2.『学力』について」で、3項目の取り組みが示されているが、より一層の改善が必要である。また、各学年の保護者の学校への期待度を把握し、家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る必要がある。

第3は、「世田谷9年教育の『学び舎』の活動」についてである。

この項目について、生徒・保護者の交流等を含めた「学び舎」としての活動は、始まったばかりであり、定着までにまだ時間がかかると考える。

保護者は、広報活動・情報提供の成果で大幅に改善され、成果が上がった。

しかし、生徒の「学び舎」の区立小学校との交流について、評価は改善されてきているが、否定的評価と「分からない」の割合がまだ少し高く、課題が残った。これは、参加している生徒しかこの活動が意識されていないためと考えるので、生徒に対する広報や情報提供の方法を検討されたい。

今年度のアンケート集計結果は、前述のように生徒・保護者ともに「評価が高い項目」が多く、また「特に評価が高い項目」も数多くあり、生徒・保護者から信頼され、生徒・保護者・地域が誇れる素晴らしい学校へと変化してきている。これは、校長のリーダーシップのもと、よりよい学校を作ろうとする教職員が、さまざまな教育活動に取り組み、真摯に努力した結果であり、その努力が生徒・保護者・地域の評価を得ているものであると考える。また、教職員が生徒・保護者などと話しやすい雰囲気を作ることで、より一層生徒・保護者から信頼される学校になると考える。

今後も生徒にとって、「好きな学校」「楽しい学校」であり続けるように、より一層のご尽力を期待する。